

米国経済・金融概況 (2025年7月)

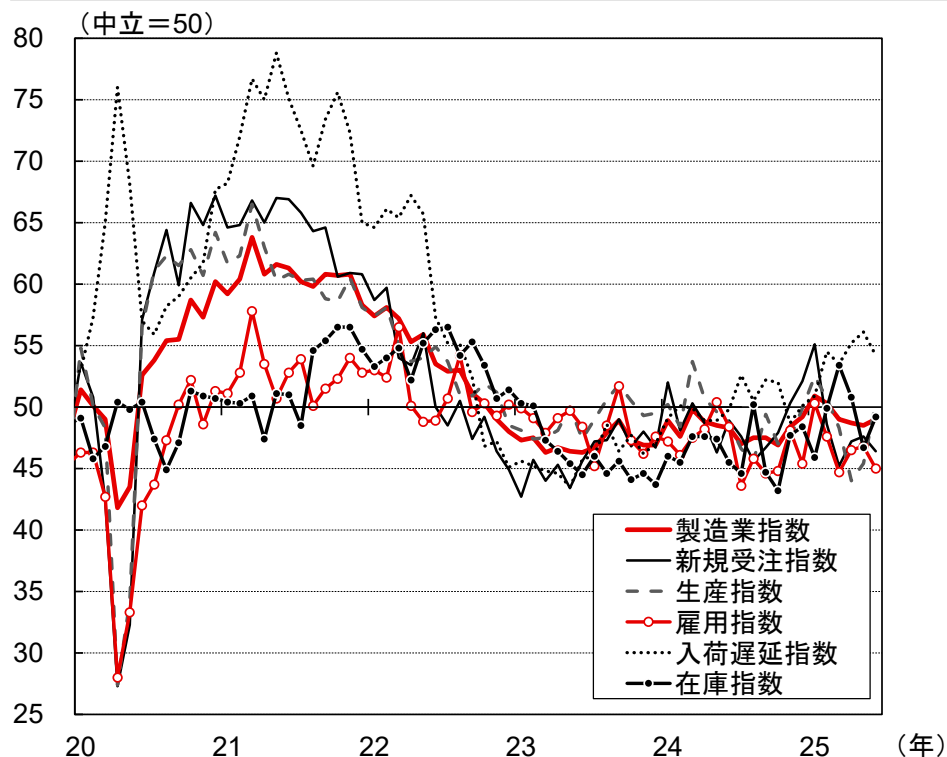
2025年7月24日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

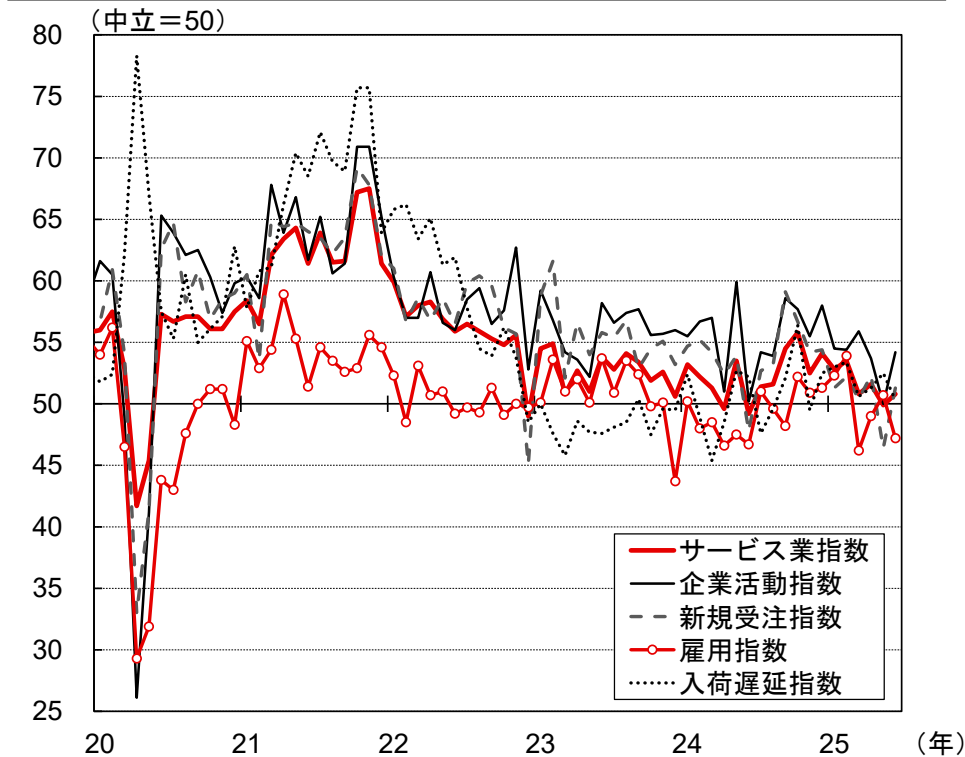
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、6月に49.0(前月比+0.5ポイント)と5ヵ月ぶりに上昇。指数の構成項目をみると、生産指数(50.3、同+4.9ポイント)、在庫指数(49.2、同+2.5ポイント)が上昇。もっとも、先行指標の新規受注指数(46.4、同▲1.2ポイント)や雇用指数(45.0、同▲1.8ポイント)は低下し、回答企業のコメントでは関税政策の不確実性に対する懸念が多く見られた。産業別では全18産業のうち9産業が拡大、6産業が縮小、3産業が横這いを報告(5月は7産業が拡大、7産業が縮小、4産業が横這い)。
- 6月のISMサービス業指数(総合指数)は50.8(前月比+0.9ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。雇用指数(47.2、同▲3.5ポイント)、入荷遅延指数(50.3、同▲2.2ポイント)は低下した一方、新規受注指数(51.3、同+4.9ポイント)、企業活動指数(54.2、同+4.2ポイント)は大幅に上昇。回答企業からは企業活動の減速や経済の不確実性に関するコメントが多く見られたとISMは指摘。産業別では10産業が拡大、6産業が縮小、2産業が横這いを報告(5月は10産業が拡大、8産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

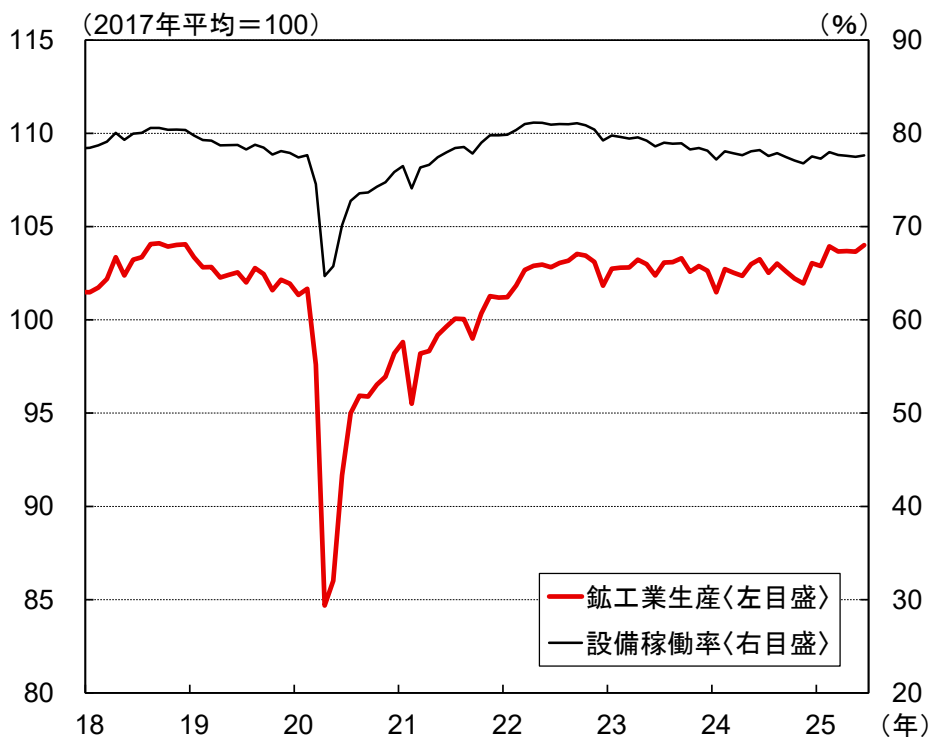


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

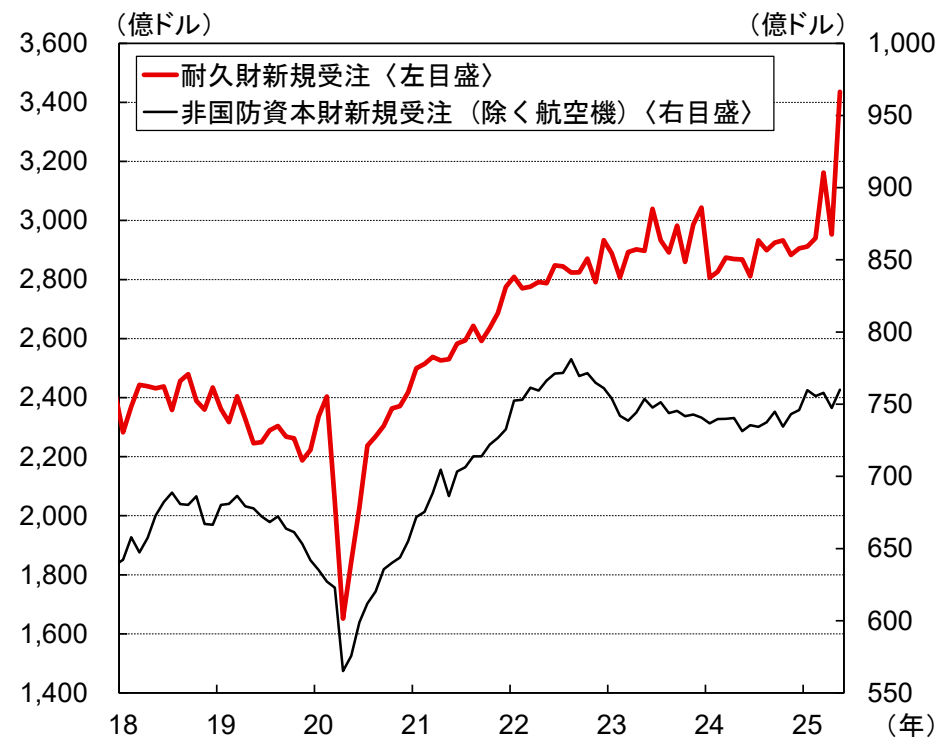
- 6月の鉱工業生産は前月比+0.3%と2ヵ月ぶりに増加。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.1%。内訳をみると、「自動車・同部品」(同▲2.6%)、「電気機器・家電」(同▲2.5%)が減少した一方、「一次金属」(同+3.1%)、「航空宇宙・その他輸送機械」(同+1.6%)、「機械」(同+0.8%)等が増加。また、「鉱業」は同▲0.3%と減少した一方、「公益事業(電気・ガス)」は熱波による冷房需要急増で同+2.8%と増加した。6月の設備稼働率は77.6%と前月から0.1%ポイント上昇。
- 5月の耐久財受注は前月比+16.4%と大幅に増加。内訳をみると、「輸送用機器」(同+48.3%)は変動の大きい「民間航空機」(同+230.8%)が大幅に増加して全体を押し上げたほか、「自動車・同部品」(同+0.6%)も小幅増加。また、「コンピュータ・電子部品」(同+1.5%)、「金属製品」(同+0.8%)、「電機・家電」(同+0.7%)、「機械」(同+0.4%)等も増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+1.7%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

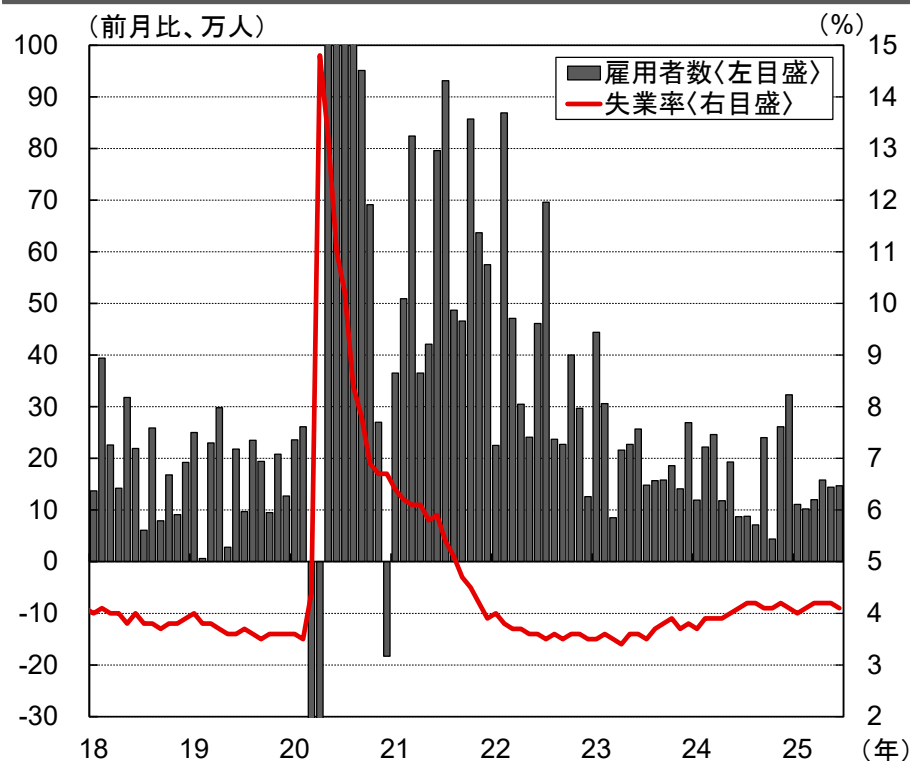


(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

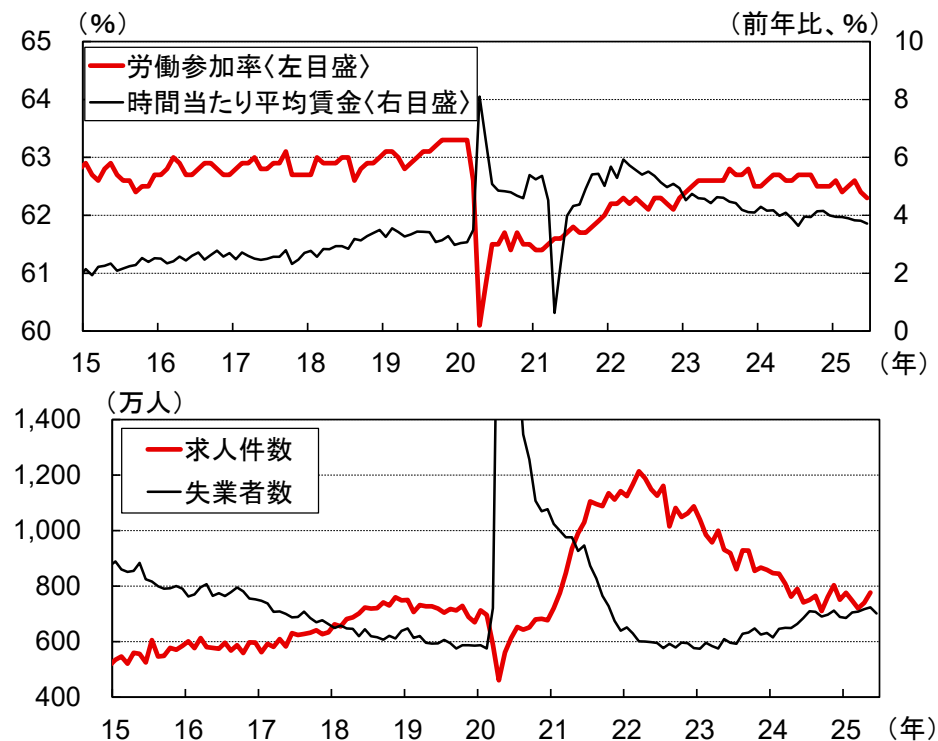
- 6月の非農業部門雇用者数は前月比+14.7万人(5月:同+14.4万人、改定値)と底堅く推移したものの、うち民間部門は同+7.4万人(5月:同+13.7万人、改定値)と鈍化。業種別にみると、「政府」(同+7.3万人)、「医療・社会扶助」(同+5.9万人)、「レジャー・接客」(同+2.0万人)、「建設業」(同+1.5万人)等が増加した一方、「製造業」(同▲0.7万人)、「専門・ビジネスサービス」(同▲0.7万人)は減少。「政府」のうち「州政府」(同+4.7万人)、「地方政府」(同+3.3万人)が増加した一方、「連邦政府」(同▲0.7万人)は5ヵ月連続で減少。
- 6月の失業率は4.1%(前月差▲0.1%ポイント)と低下し、労働参加率も62.3%(前月差▲0.1%ポイント)と2ヵ月連続で低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.7%と前月(同+3.8%)から鈍化。
- 5月の求人件数は776.9万件(前月比+37.4万件)と2ヵ月連続で増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.07倍と前月(1.03倍)から上昇。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

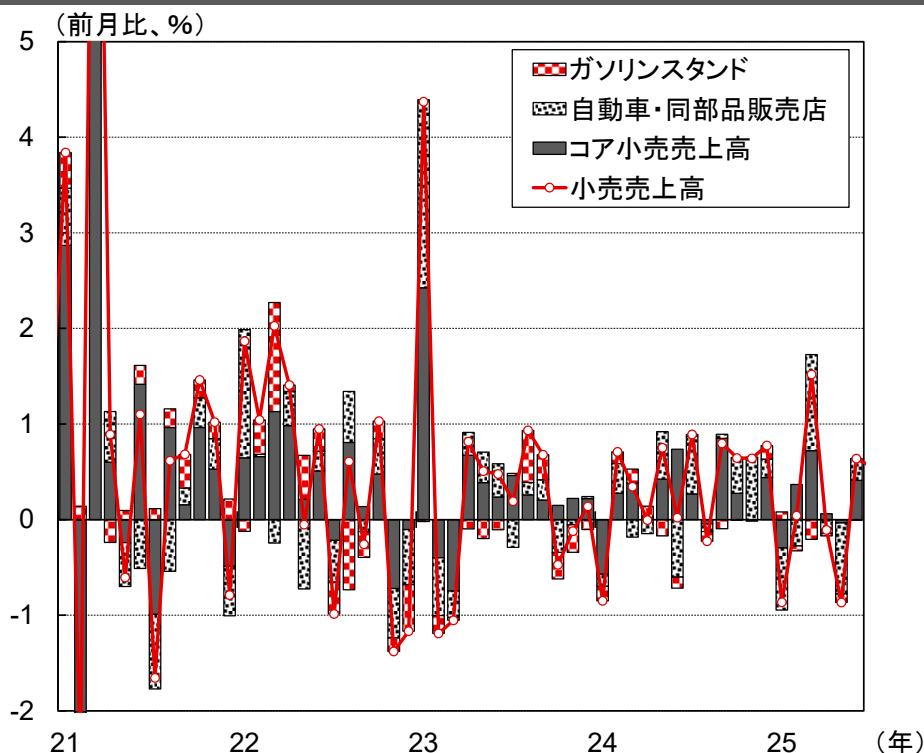


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

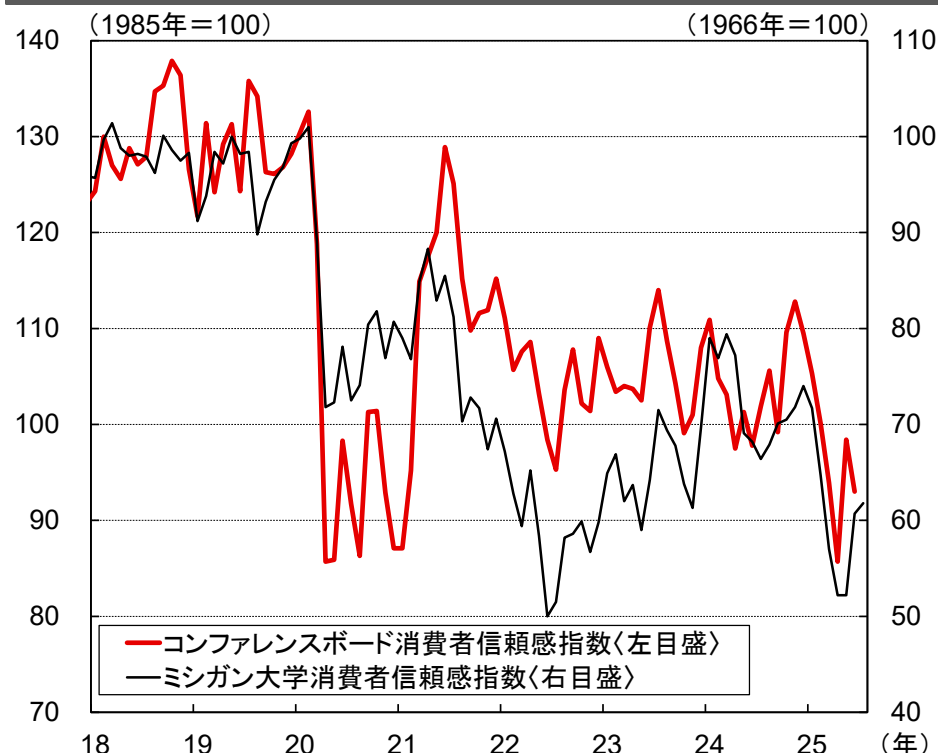
- 6月の小売売上高は前月比+0.6%（5月：同▲0.9%）と3ヵ月ぶりに増加し、市場予想（Bloomberg集計：同+0.1%）を上回った。また、「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高も同+0.6%（5月：同+0.0%、改定値）と増加。業種別にみると、「自動車・部品販売店」（同+1.2%）、「建材・園芸用品店」（同+0.9%）、「衣料品販売店」（同+0.9%）、「飲食店」（同+0.6%）、「総合小売店」（同+0.5%）、「無店舗小売店」（同+0.4%）等が増加。
- 6月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は93.0（前月比▲5.4ポイント）と2ヵ月ぶりに低下。一方、7月のミシガン大学消費者信頼感指数は61.8（同+1.1ポイント）と2ヵ月連続で上昇。また、ミシガン大学の期待インフレ率は、1年先が4.4%（前月：5.0%）と2ヵ月連続で低下、5-10年先は3.6%（前月：4.0%）と3ヵ月連続で低下。

小売売上高の推移



（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

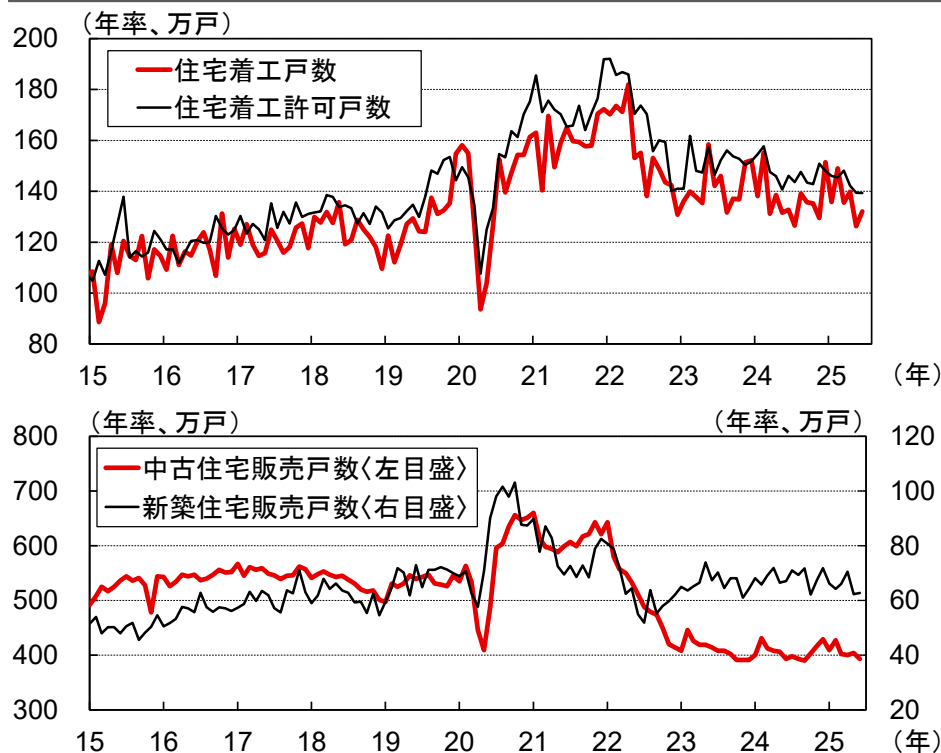


（資料）コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

- 6月の住宅着工戸数は前月比+4.6%の年率132.1万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。ただし、内訳をみると、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+30.6%の41.4万戸と大幅に増加した一方、一戸建住宅は同▲4.6%の88.3万戸と2024年7月以来の低水準。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲0.1%の年率139.3万戸(季節調整済)と3ヵ月連続で減少。
- 6月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲2.7%の年率393万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。新築住宅は同+0.6%の年率62.7万戸(季節調整済)と、前月の大幅減(同▲11.6%)から回復は限定的。
- 6月の住宅販売価格は、中古住宅が435,300ドル(中央値)、前年比+2.0%(5月:同+1.6%)と6ヵ月ぶりに伸びが加速。一方、新築住宅は401,800ドル(中央値)、同▲2.9%(5月:同+2.0%)と2ヵ月ぶりに下落。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

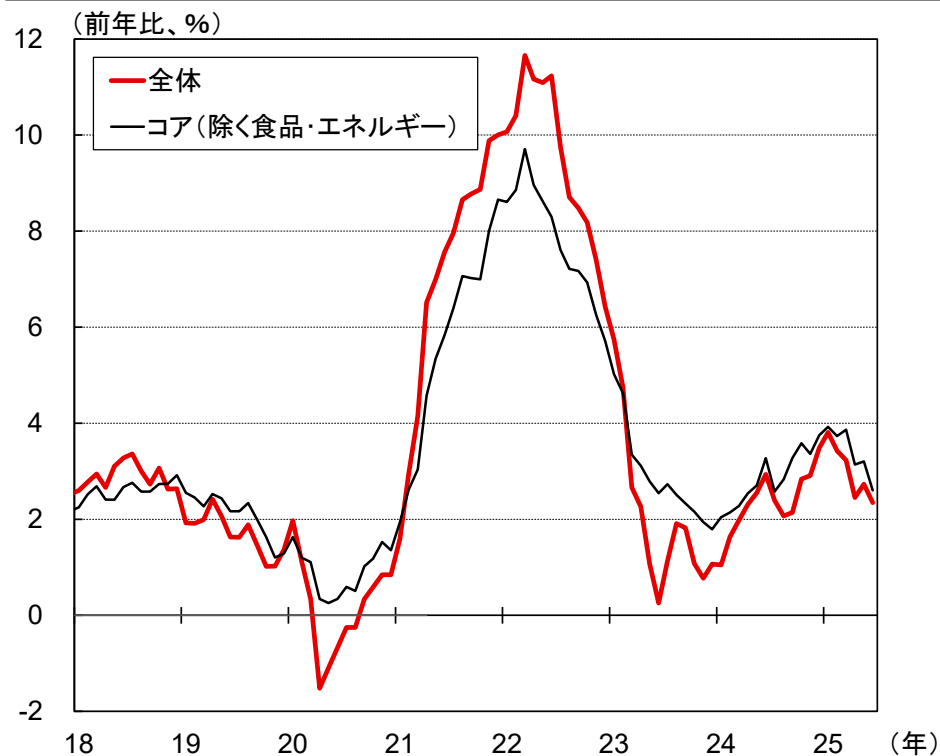
- 6月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.7%(5月:同+2.4%)、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.9%(5月:同+2.8%)とそれぞれ加速。前月比では、総合指数は+0.3%(5月:+0.1%)、コア指数は+0.2%(5月:+0.1%)と加速も、コア指数の伸びは予想を下回った。「家電」(前月比+1.9%)、「玩具」(同+1.8%)、「コンピューター及び周辺機器」(同+1.4%)、「衣料品」(同+0.4%)等に関税の影響がみられた一方、ウェイトの大きい「新車」(同▲0.3%)、「中古車」(同▲0.7%)は下落してコア指数の前月比の伸びを下押しした。
- 6月の生産者物価指数は前年比+2.3%(5月:同+2.7%)と2ヵ月ぶりに伸びが鈍化。内訳をみると、「財」は同+1.7%(5月:同+1.1%)と伸びが加速した一方、「サービス」は同+2.7%(5月:同+3.5%)と2ヵ月ぶりに鈍化。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.6%(5月:同+3.2%)と2ヵ月ぶりに鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

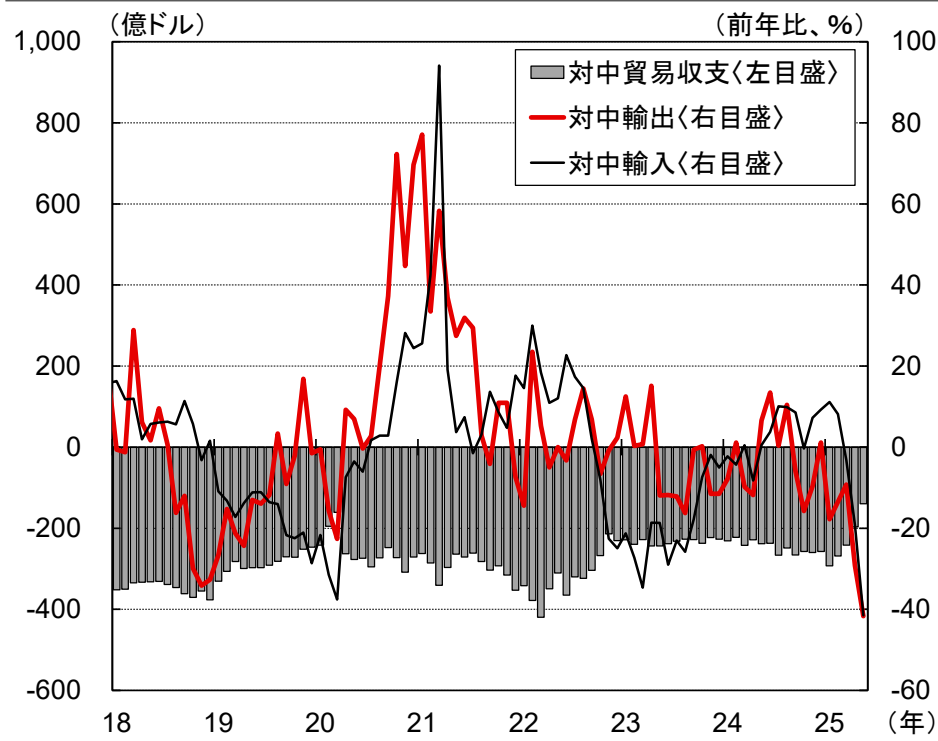
- 5月の貿易収支(財・サービス)は715億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+18.7%(同+113億ドル)と2ヵ月ぶりに拡大。輸出は同▲4.0%(同▲116億ドル)と減少した一方、輸入は同▲0.1%(同▲3億ドル)と前月からほぼ横這い。前年比でみると、輸出は+5.3%、輸入は+3.3%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は5月に140億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲29.1%(同▲57億ドル)と4ヵ月連続で縮小。対中輸出(財)は同▲19.9%(同▲17億ドル)と3ヵ月連続で減少、対中輸入は同▲26.3%(同▲74億ドル)と4ヵ月連続で減少。前年比でみると、対中輸出(財)は▲41.7%、対中輸入は(財)は▲41.5%と大幅に減少。
- 対EUの貿易収支の赤字幅は225億ドル(赤字幅は前月比+25.6%)、対メキシコは171億ドル(同+26.7%)、対台湾は115億ドル(同+18.9%)、対カナダは28億ドル(同+39.6%)と前月から拡大。対日本の赤字幅は58億ドル(同▲0.8%)と小幅縮小。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、7月半ばにかけて4.5%近くまで上昇。7月上旬に減税歳出法案(One Big Beautiful Bill Act)が成立して財政悪化懸念が強まったほか、トランプ大統領が関税政策で強硬姿勢を示し、早期利下げ期待が後退した。その後は、関税政策を巡る景気の不透明感から10年物国債利回りは低下。
- ダウ平均株価は、中東情勢の緊張緩和やFRBの早期利下げ期待等から6月下旬に上昇。7月に入り、関税政策を巡るトランプ大統領の強硬姿勢により不透明感が高まったものの、予想よりも底堅い企業決算が株価の支えとなったほか、7月22日の日米関税交渉の合意を受けて、EUとの関税交渉進展への期待も高まり、ダウ平均株価は過去最高値近くまで上昇。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp